



1、ミラノの大聖堂(デュオーモ) 新島を驚嘆させた大会堂。すぐ近くの名所、十字型アーケード(ヴットリオ・エマヌエーレ2世ガレリア)のスケッチを新島は残す。

ヨーロッパの新島襄

文と写真 本井 康博 (大学神学部教授)

海外生活12年

新島襄は19世紀に、二度にわたって世界を一周しました。海外生活は、都合、12年近くになります。密出国した第1次渡航(10年余)と、帰国10年後の第2次渡航(約1年半)です。

このうち、アメリカ合衆国での滞在は、前後9年余にも及びます。だから、新島の足跡を辿るツアーも、調査も、研究もおのずとアメリカに集中します。

新島研究の面でも、ヨーロッパはアジアと並んで、いまだ未開拓地です。新島が、ヨーロッパで何を見、何を見なかったか、これは究明する価値があります。新島が訪ねた国は、結構多いのです。英、独、仏のほかにはスコットランド、ロシア、デンマーク、オランダ、ベルギー、スイスに及びます。

ヨーロッパへ

私の関心も、アメリカ偏重でした。出張、調査、視察、ツアーガイドを含めて、これまでの海外旅行は、ほとんどニュー



2、新島が療養した保養所(ヴィースバーデン) 中央低層の建物。その手前の公園は、「源泉広場」という(Spaziergang durch alte Wiesbaden, Warberg Verlag, 2007)。木戸孝允が泊ったホテルにも近い。

イングランドでした。そこで昨年(2009年)の夏、思い切って矛先を転じ、欧州に「挑戦」しました。まずは、ドイツ、スイス、イタリア3か国です。移動を含めて、7泊で7箇所の調査を行なうという実に乱暴な行程です。

新島は1872年に岩倉使節団の一員として、アメリカからヨーロッパに渡り、8か国を視察しました。初めてのヨーロッパ体験です。

その際、アメリカとの比較、という視点が目立ちます。初めてカトリック教国の実情にも触れて、プロテスタント諸国

との差異を肌で感じとっております。

ドイツ

なかでもドイツへの評価は、相当です。新島にとつて、当時の三大文明国は、英米と並んでドイツです。いずれもプロテスタント国です。おりからの普仏戦争(1870年~1871年)でドイツが、カトリックのフランスに勝利したことも、高評価の一因です。

新島はパリにも滞在しておりますが、その間の日記の記述は、完全に空白です。フランスを「黙殺」するかのような、そつけない扱いです。

ドイツでの拠点は、ベルリンです。岩倉使節団の文部理事官、田中不二麿と別れたあと、新島が長い期間を費やして、視察報告書(例の『理事功程』の原稿の一部)を書き上げた街です。通算して、少なくとも半年は、滞在しております。

木戸孝允と再会

昨年、私は関空からフランクフルトに



3、ビーフリヒ(ヴィースバーデン) 今は「ライン下り」の乗船場。ローレライにも近い。新島はここからコブレンツに出港したり、木戸を見送ったりした(絵はがき)。

飛び、そこからヴィースバーデン(温泉地)とビーフリヒ(港)に直行しました。新島は前者で、長期療養いたします。療養所は、田島繁氏(元中学校教諭)により最近、特定されましたが、まだ疑問が残っています。それはそれとして、ベルリン滞在と合わせると、1年近くになります。ドイツは、ヨーロッパ諸国全体を通して、新島が一番、長期滞在した国です。

新島はこの温泉地で、使節団副使の木戸孝允に再会します。木戸はこの時、独留学させていた青木周蔵や品川弥二郎(い

ずれも長州出身で新島と同年輩。後に大臣になります)を同行していました。

ライン川

ヴィースバーデンでは、新島が3人の長州人と散歩したクア公園や、彼らを見送ったライン川の船着場(ビーフリヒ)、さらには木戸が宿泊したホテル跡なども確認できました。



4、カイザー・フリードリッヒ・テルメ(ヴィースバーデン) ヴィースバーデンを代表する温泉浴場で、ローマ様式が売り。1913年の建設(施設のパフレット写真)。



5、ルセルン(スイス)のカペル橋 ヨーロッパ最古の木製橋。現在のものは1993年の再建。新島が泊まったホテルは、左岸の建物群(ホテル)の裏側に現存する(絵はがき)。



6、サンゴタール峠(2108m、スイス・アルプス) チューリッヒからミラノへ至る。新島はA(アンダーマット)からB(峠)まで歩いた。C(アイロロ)を南下するとミラノである。

独仏の間を流れるライン川は、かつては両国間の紛争要因でした。ちなみに、同志社のカレッジ・ソング「ワン・パーパス」の原曲は、「ラインを守れ」というドイツの国民歌です。戦中にナチスが愛好したために、いまではドイツ国内では「禁歌」扱いです。

さらに、木戸ですが、彼がこの時、携帯した欧州ガイドブック(アップルトン社、1870年版)を同志社大学神学部は今年、入手いたしました。木戸の書入れが一部入った貴重書です。

スイス

次にスイスでは、新島が泊ったホテル(ルセルンとサンゴタール峠)に宿泊し、彼が登ったりギ山をも散策しました。リギ山は、ヨーロッパ初(1871年〜1873年)のアプト式登山電車が走った観光名所です。竣工式には、おりしも訪欧中の岩倉使節団の正使、岩倉具視が招待されました。

久米邦武が書いた視察団報告書、『米欧回覧実記』にはこうあります。「新二架成セル山路仰高鐵路アリ。人民ミナ、

使節ト之ヲ落成センヲ望ム」と。さすが、観光立国スイス国民のもてなし方は、ユニークです。なかなかの「やり手」ですね(『岩倉使節団の再発見』37頁)。これより11年後、山好きな新島も、「山路仰高鐵路」で頂上を目指しました。

あわや、旅路の罫に

一方、アルプスの峠のホテルは、峠近くで呼吸困難の危篤に陥り、いったんは死を覚悟した新島が、英文で遺書(全4枚)を認めた所です。持参したスケッチ



7、リギ山(1797m、スイス) ヨーロッパ初(1871年～1873年)の登山電車が竣工した際には、岩倉使節団の正使、岩倉具視が招待された。山好きな新島も1884年に電車で登山した。



8、サンゴタル峠のホテル 新島時代のものが、今も健在で、夏だけ営業する。

帳に認めた遺書では、ミラノの牧師 (Pastor D. Turino) に遺体の引き取りと葬儀を依頼しております。

つまり、葬儀や埋葬は、ミラノの教会や墓地で執行されることになっていたのです。もしも新島の墓が、イタリアならば、その後、同志社人の「ミラノ詣で」が常時、見られたはずです。

ところで、ヨーロッパの小国では、新島はスイスやスコットランドが好きでした。プロテスタント国、というだけでなく、宗教改革の祖国であるという点が、新島の共鳴を呼んだのでしょうか。さら

に、山好きの新島には、アルプスは趣味の合う土地柄のようでした。

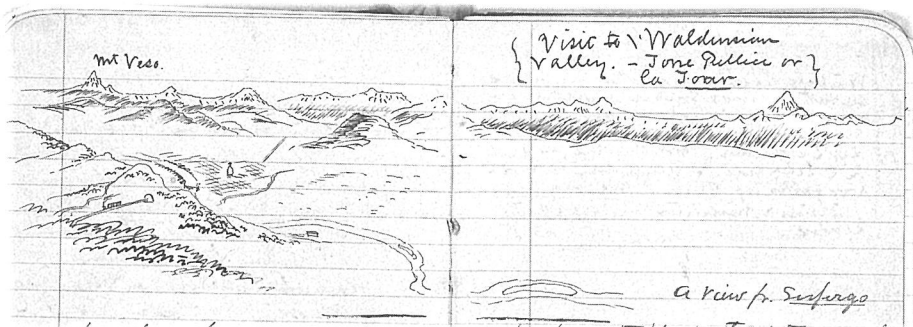
イタリア

最後は、イタリアです。新島は二度目のヨーロッパ旅行では、もつとも長期間この国に滞在しました。1次渡欧のドイツ滞在に相当します。にもかかわらず、イタリア巡行は、あまり注目されませんでした。新島はイタリア半島を南から北へ縦断し、ほとんどの有名都市を巡り歩いている、にもかかわらずです。

1) I am a native of Japan, and a Christian missionary to my native land. on account of ^{my} ill health I was obliged to leave my native land for good. I came ~~from~~ from Milan to Andermatt yesterday & took a room at Hotel Obegalp. I took a trip to this S. Jutland Pass with a German gentleman ^{this morning} as I found myself unwell. He left me there & went to Airolo. I found myself lacking of breathing my dear native land!!

9、新島の英文遺書(1884年8月6日) サンゴタール峠でスケッチ帳に書いた遺書(全4枚)。ミラノの牧師に遺体の引き取りと葬儀を依頼する(同志社蔵)。

今回は、時間の関係で、調査は北イタリア、すなわちミラノとピエモンテ(トリノが中心です)に限定しました。新島は1884年、トリノ万博などを見学したのち、ひと夏をピエモ



10、スパルガ(トリノ)でのスケッチ トリノ郊外の山頂で新島が描いたもの。翌日に出向く予定の避暑地(Torre Pelice)を遠く望むスケッチ。避暑地は左上のヴィソ山(Mt. Viso)の麓である(同志社蔵)。



11、スバルガ山頂に立つ教会堂(トリノ) 新島はこのベランダから下界を写生した。

ンテのトレ・ペリチェという山村で送ります。

フランスに近いアルプスの山麓です。ここを訪ねる日本人観光客は、さすがに少数です。団体旅行でも、旅行者者泣かせのレア・コースです。

終の棲家^{すみか}、ミラノ

ピエモンテとともに、ミラノも大事です。新島は、著名なドエオーモを始め、近くの十字型アーケード(ヴットリオ・エマヌエーレ2世ガレリア)やダ・ヴィンチの「最後の晩餐」(サンタ・マリア・デレ・グラツィエ教会蔵)も、しっかりと見学しています。

それにしても、本来、カトリックの本山、バチカン(ローマ)を擁するイタリアは、新島が敬遠してもおかしくない国です。

けれども、ピエモンテの小村で、実に、1カ月以上も避暑をしま



12、ミラノ賛美教会 新島が礼拝を守ったヴァルドー派の教会(同教会HP)。新島の葬儀はここで行なわれるはずであった。ドエオーモのすぐ側にある。

した。

なぜか。そこだけが、イタリアでは特異なプロテスタント（ヴァルドー派）の村だからです。この夏、彼は宗教色あふれる珠玉のエッセイをいくつもここで書き残しております。

さらに、新島の葬儀が行なわれるはずだったミラノの教会が、カトリックではなくて、れっきとしたヴァルドー派教会だったことも、判明しました。しかもイ



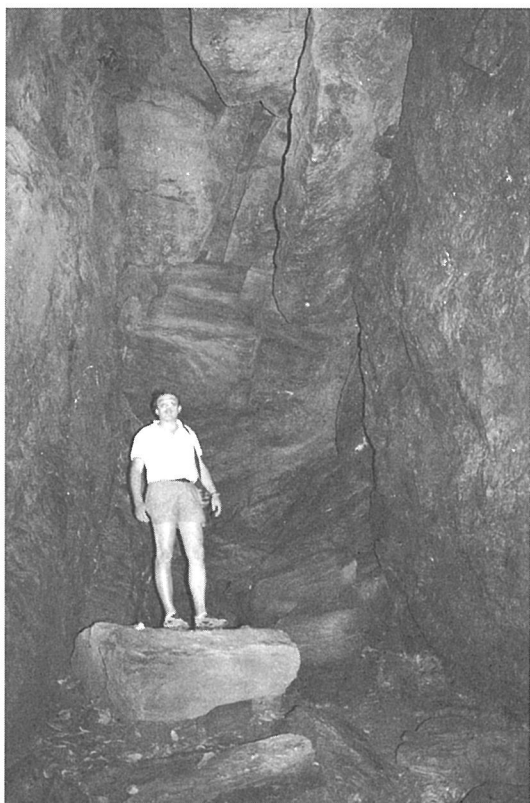
13、トレ・ペリチェのホテル(ピエモンテ) 新島が泊った宿。古びた看板には、往時のホテル名がゆがみに認められる。

タリア唯一の日本語礼拝（内村伸之牧師）が守られていることも。

となれば、墓は観光地としても有名なミラノ記念墓地だったのだろうか。

2010年ツアー

今年の夏、同じ行程で団体旅行をします。8月30日から10日間、ドイツ、スイス、イタリア3か国を巡回します。なる



14、岩の教会(トレ・ペリチェ) 迫害を避けるためにイタリアのプロテスタント(ヴァルド派)の信徒たちは、隠れて礼拝を守った。新島は、この遺跡をわざわざ見学した。

べく、新島が泊った宿舎を利用します。本来、これは同志社大学東京オフィスで行なった「同志社講座」の課外授業です。2010年春学期の講座（月例で全5回）の主題が、「国際人 新島をつくった欧米体験」でした。教室の学習内容を实地に体験しようという狙いです。読者の皆さまも、その一端を紙上で味わっていただければ、幸いです。



ストレスを、芸術家がつつた世界観を知ることにより、解決する糸口を見いだすことができることがアートの力の一つであるという意見が述べられた。そして、ロボット演劇の試みの意義について説明があった。

佐野氏からは、ソングライターが現代を生き抜く詩人であり、ポップソングは時代を超えたポエトリーであるとし、優れた歌詞とは、1. 優しい眼差しがあるのか、2. 生存の意識が真剣に現れているのか、3. 韻律（ビート）が同時性を持つのか、4. 自己憐憫でなく他者に視点が存在する詩であるのか、5. 普遍性があるのか、6. 音と言葉と継ぎ目の無い連続性があるのか、7. 共感を集めることに自覚的であるのか、8. 良いユーモアの感覚があるのか、といった基準を満たすものであると説明があった。

岡部氏からは、美術展覧会の場において、アートの多様性を通じて、社会状況の認識とジェンダー等の理解が可能となることとがアートの重要な力であるという主張がありコレクションの動向を見ると、アートの社会に対するメッセージと社会がアートに求める役割の変遷を窺うことができると述べられた。

デイスカッションでは、「絶望からアートが生まれること」という基調講演での主張に対して、自己を追い込み、内面をさらけ出す時に、アート技法を用いることにより新しい世界観が生まれるという解釈が加えられた。さらに、混乱した現実がアートを超えていく時代のアートとは何かという問題提起に対して、アートがコミュニケーション手段となるにより、混乱した現実に対して解を与えることができ、そこにユーモアが入ることにより、問題解決の可能性が広がることが述べられた。

3時間におよぶ白熱した議論によって、21世紀の社会における「アートの力」に関する理解が深められ、盛況の内にシンポジウムは終了した。シンポジウムの開催によって、同志社大学から社会に向けて、21世紀社会に向けての新しいコンセプトと指針を少しでも示すことができたのであれば幸いである。